

2016年(平成28年)12月7日(水)

三島駅南口西側 再開発

東急が事業者に

市が内定 16階建てホテル建設

三島駅南口西側の市有地(約3400平方メートル)再開発事業で、三島市は6日、東急電鉄(東京都渋谷区)が事業者に内定したと発表した。東急は鉄骨16階建て、客室200室のホテルを建設。ホテル東側に2階建て吹き抜けの商業エリアも設け、箱根西麓三島野菜などの地元物産店も入る。東京五輪の開催を間近に控えた2020年4月の開業を目指す。【垂水友里香】



三島駅南口西側に東急電鉄が建設を予定しているホテルの完成予想図。三島市提供

土地は1997年に入。現在は市と公社が

市土地開発公社が国 所有し駐車場や観光案
鉄清算事業団から購 内所として使っている

る。

来月中旬にも市と東急が基本協定を締結する。市は4億8100万円で土地を売却。東急が土地・建物を保有し、ホテル部分は東急ホテルズに賃貸し「エクスセルホテル東急」として営業する予定だ。

客室の7割がツイン以上と観光客向けで、商業エリア屋上には「水と緑の段上テラス」も設ける。従業員の大半は地元から採用する。

市民団体からは、建設の影響で市内の湧水が枯渇することなどを危惧する声が上がっているが、市は「水は地

下約14メートルを流れている。くい打設はせず、建物の基礎は地下3・5メートル以内に制限する。地下室も造らないと説明を受けている」としている。

市は今年8～11月に事業者を募集したが、応募は東急のみ。売却価格は最低売却価格より約57万円高だけだった。豊岡武士市長はこの日の記者会見で、「23社が説明会に参加

し、競争性は十分あった」と説明した。応募しなかった企業からは「事業展開上、採算が取れない」などの回答があったという。

豊岡市長は「まちの顔を整備したいと約20年にわたり取り組んできた。リーマン・ショックが起きたりしたが、ようやくここまでこぎ着けた。東急が事業主体であることで、

三島の魅力が首都圏でも発信されると期待している」と話した。

同駅南口は、東側の駐車場や民有地約1・3秒でも高層マンションなどの建設構想が浮上している。